

鎌足さくらの里 名所・旧跡

A 熊野神社



伊豆島、請西との境に位置し、170段余りの石段を登り詰めた風光明媚な高台に鎮座しています。創建は孝徳天皇(645~54)の時代。紀州熊野神社を奉遷したと伝えられています。

B 新宮寺



真言宗豊山派、本尊は薬師如来。熊野神社の別当寺として創建。天正年間(1573~92)に戦火により焼失しましたが、享保年間(1716~36)に再建されています。本堂老朽化のため平成4年(1992)3月に改築されています。

C 能満寺



臨済宗円覚寺派、本尊は虚空蔵菩薩。養和元年(1181)大野筑前守の勧請により開山。鋳匠大野五郎右衛門の菩提寺として中世の五輪塔や江戸時代の宝篋印塔などが残っています。

D 間暗寺(まぐらじ)



臨済宗円覚寺派、本尊は千手十一面観世音菩薩。身丈四尺、寺伝によると、高倉観音と同木の彫刻で行基作と伝えられ、姉観音と言われています。本堂は天正年中(1573~92)に焼失しましたが、安永年中(1772~81)に再建されています。

E 北野神社



菅原道真公を祀り、「天神さま」と親しまれ受験期になると、多くの人が合格祈願のためお参りしています。近くに梅林もありましたが、現在は特別養護老人ホーム「矢那梅の香園」があります。

F 栖安寺(せいあんじ)



臨済宗円覚寺派、本尊は十一面観音。鎌倉円覚寺塔頭帰源院住職の退院寺として開山。慶長年中(1596~1645)、里見義康より寺領13石余の寄進を受け再興。現在の本堂は天保12年(1841)に建立され、山門と客殿・庫裡は平成3年(1991)に新築しています。

G 諏訪神社



矢那字大坪の北側の丘陵は亀甲山と呼ばれ、その東側にかけて里見氏の支城として天文年間(1532~55)に築かれたと伝わる大坪城址があります。その一角に、守護の神仏を祀り、武運の長久、士民の安泰を祈った諏訪神社があります。

H 賀茂神社



矢那字中三光路にあり、祭神は別雷神。拝殿内には、明治時代に描かれたと思われる男拝み図、女拝み図などの絵馬が30数枚奉納されています。平成26年に明神両部様式の鳥居が修復され、朱色の輝きを取り戻しています。

I 吉野神社



鎌足公民館近くの矢那字名主ヶ谷にあり、天之水分神を祀る。周囲に下名主ヶ谷古墳群があり、いくつかの円墳が見られます。平成26年には、境内近くに鎌足桜の苗木が植樹され、今後の成長が期待されます。

J 徳蔵寺



真言宗豊山派、本尊は聖観世音菩薩。開基は不詳ですが、昭和49年(1974)の焼失前の本堂建立の棟札には宝暦10年(1760)とありました。昭和60年(1985)に本堂を再建。境内には、真言宗の高僧、海如和上や海量大和上の石碑が建てられています。

K 御嶽神社



矢那字猪台の県道脇に立つ幟のある所から1.2kmほど登った標高110mの山中に鎮座。境内は890坪の広さを持ち、社殿・拝殿ともに大社造り、大正4年(1915)に、氏子青年により花崗岩石の神明造りの鳥居が奉納されています。

L 矢那川ダム



矢那川治水対策とかずさアカデミアパーク開発に伴う雨水流出増対策を兼ねた治水ダム。アースダム型式で下流面に広範囲に土盛りされた斜面は、公園として整備。鎌足桜など多くの樹木が植栽され自然と親しむこともできます。

M 鎌足さくら公園



平成25年(2013)2月17日、かずさアカデミアパーク内の「かずさ1号公園」に40本の鎌足さくらと70本のソメイヨシノの苗木を植樹、同時に公園の名称を公募し、「鎌足さくら公園」と改称しました。更に植樹を進め、さくらの名所とする計画があります。

N かずさアカデミアセンター(かずさアーク)



千葉県が推進する「かずさアカデミアパーク構想」のセンター施設としてオープン。かずさアカデミアホール(会議施設)、オークラアカデミアパークホテル、アクアかずさ(スポーツクラブ)などが集まったコンファレンスセンターです。

O 高倉観音(高蔵寺)・熊野神社



真言宗豊山派、本尊は正観世音菩薩。用明天皇の時代に開基、坂東第三十番札所として多くの参拝客が訪れています。藤原鎌足出生にまつわる伝説が残され、平成18年鎌足桜の祖株が本堂北側に移植されています。また、本堂東側に孝徳天皇の代に創建したと伝えられる熊野神社があります。

P 八幡神社



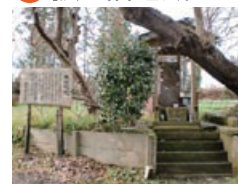
元和2年(1616)に、里見氏の家臣、安西市之正が帰農したとき、創建したと伝えられています。境内には市内の神社では、あまり見られない奏楽堂の建物が残されています。4月の春の大祭には、湯立神事が行われ現在も続いています。

Q 勇後の松碑



石橋山合戦に敗れた源頼朝が、安房に逃れ再起を計って鎌倉に向かう途中、古い松の木の傍らで休息したとき、里人が草を敷いてもてなしたと伝えられています。これが「草敷」の地名となり、その松の木を「勇後の松」と呼ぶようになったと石碑に記されています。

R 振り袖地蔵



明和5年(1768)、横田村に嫁いだ娘が、振袖を着て生家に戻り、婚家に帰る途中暴漢に襲われ亡くなりました。村に疫病が流行し子供達の病死が続いたことから、村人は地蔵菩薩を建て弔いました。今でも、毎年春彼岸に甘酒を振舞い、供養しています。